

宮崎市立古城小学校の学力向上への取組

1 平成17年度の本校の学力調査結果及び意識調査から見た課題

(1) 学力調査結果からの課題

国語	<ul style="list-style-type: none"> ・言語事項（主語・述語、ローマ字）、目的に応じて文章を書く力がやや劣る。 ・話し合いや発表などで、全体の組立を工夫して話そうとすること、新しく覚えたことばをふだんからできるだけ使うようにすることの関心・意欲がやや低い。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・調査方法の判断、浄水場の仕組みについての理解ができていない。 ・宮崎県の人々のくらしが県平均より低く、日本のいろいろな町や場所のことをもっと知りたいと思う関心・意欲が低い。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・数直線上での数の大・小、十進法位取り、伴って変わる量の関係式がやや劣る。 ・小数を相対的にとらえること、四則の混合した計算が県平均よりやや低い。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・星座早見盤の使い方、ものの温度とかさ、あたためられた空気、水の状態と体積の変化が県平均より低い。 ・実験観察の結果予想や、興味をもったことを調べようとする関心・意欲が低い。

(2) 意識調査結果からの課題

<ul style="list-style-type: none"> ・辞典や資料で言葉の意味や分からないことを調べる態度が育っていない。 ・興味あることを深く調べてみる知識欲が低く、学習内容が生活に結びつかない児童が多い。 ・学習時間や読書時間が県平均よりもやや少ない。 ・学習の楽しさを感じ取る力や自分で学習の計画を立てる学習計画力がやや劣る。 ・授業を受ける姿勢として、話を最後まできちんと聞くことや忘れ物をしないように気を付けることが苦手である。 ・職業や進路、将来かなえてみたい夢等の自己成長力に、やや意識の低さが見られる。 ・見直しや確かめが苦手で、勘違いや思い込みが強い児童が見られる。 ・理科への関心が少ない児童がやや多く、内容の理解度の差も大きい。

2 学力向上に向けた課題解決への具体的な取組

(1) 学力向上に向けた経営方針

- ① 「知」「徳」「体」における到達目標を設定し、達成のための手立てを工夫する。
- ② 国語、算数、体育、道徳、学級活動等において全員が研究授業を行い、基礎学力の定着と指導技術の向上を図る。
- ③ 業間の時間を活用した漢字・計算の練習や確認テストを行い、学力の診断とフィードバックに努める。
- ④ 調べ学習や読書の時間で積極的な図書室活用と図書に関する環境設営に努める。
- ⑤ 保護者と連携し、家庭学習の充実に努める。

(2) 教育課程内の取組

- ① 「読む」「書く」「コミュニケーション能力」に関する到達目標
国語科、算数科などにおける到達目標と評価基準を設定し、達成のための手立てに沿って授業を進めていった。定期的に評価を行い、個に応じた指導に生かすようにした。
- ② 学びタイム
業間に20分間設定し、水曜日は漢字練習、金曜日は計算練習に徹底的に取り組ませる。4～7月は前学年の内容も練習させる。練習とテストを組み合わせる成果がわかるように実施している。
- ③ ぐんぐん週間
予備時数や教科の指導時間を工夫して、7月・12月・2月に習熟の時間を設定した。1週間の時間割に国語科・算数科の時間を各5時間程度位置付け、担任と教頭、専科、非常勤講師で指導にあたる。最後の日には、漢字コンテスト・計算コンテストを実施した。
- ④ 小中連携による学力向上の推進
5・6年は週2時間、担任と兼務発令教諭による算数科の習熟度別少人数指導を実施し、

基礎基本の定着を図っている。残りの2時間は少人数指導の非常勤講師、教頭、専科教諭で指導を行っている。

(3) 教育課程外の取組

①朝の読書

昨年は週2回だった読書の時間を毎日10分設定することにより、児童が本と向き合う時間を確保し読書活動の定着・向上を図るようにした。週50分の読書の時間が学習や生活による影響を与え、年間の読書量も飛躍的にアップした。

学年	目標	達成
1年生	3,300	2,720
2年生	3,500	2,305
3年生	3,200	1,655
4年生	10,000	6,655

<学年読書目標>

②読み聞かせ

朝の読書の時間に月1、2回程度、保護者ボランティアや教師による読み聞かせを実施している。また、参観日に業間の時間を振り替えて、参観授業の前に保護者による読み聞かせの時間を、15分設定した。保護者も児童も楽しみにしている。



<おすすめの本コーナー>

③読書意欲の喚起

読書コーナーを設置や読書フェスティバル(読書週間)を実施した。「多読賞表彰」や「おすすめの本紹介文コンテスト」など児童も楽しみにしており、掲示された作品や本を通して読書への関心を高めることができた。

④長期休業中の学習支援

夏季休業中にサマースクールを5日間、そして、冬季休業中にウインタースクールを2日間実施した。課題解決コースと学習内容復習コースに分けて希望者を対象に実施した。



<サマースクール>

(4) 家庭、地域との連携

①家庭学習の充実

「家庭学習の手引き」と学習の要点(国語・算数)を配布し、啓発を図った。また、よみ声学習(国語・算数)を奨励し、音声表現力、計算力の向上を図った。

②教育相談

夏季休業中(7月下旬)は全員、冬季(12月)は希望者に実施し、保護者へのアドバイスや情報交換を行った。

3 成果と課題(今後の取組を含む)

(1) 成果

- 校時程を工夫して生み出した朝の読書や習熟の時間などが学力向上を支える力につながっていることがわかった。週2回の学びタイムでは、到達目標達成に効果を上げることができた。
- 年間50冊以上本を読むという個人目標、1万冊読むという全校目標が達成できた。保護者による読み聞かせや家庭での読書推進も効果があった。
- 長期休業を利用した「サマースクール」「ウインタースクール」への参加希望者も年々増え、意欲的に学習する姿が見られた。
- 算数科においては習熟度別少人数指導に大きな成果が見られた。CRTテストでは5%以上全国平均を上回った。
- 参観日で家庭学習の重要性和協力について説明した。取組の度合いには差があるが、保護者の意識の向上が見られた。

(2) 課題

- 国語科を中心とした「書く」「コミュニケーション能力」の到達目標達成のための手立てを工夫する必要がある。
- 学力向上につながる読書活動をさらに推進し、年間指導計画に図書室利用を位置付ける。
- 学びタイムの計画的な実施と評価、読書や学習の努力の成果が、児童や保護者の目に見えるような手立てを工夫する必要がある。